

(資料4)

中山間地域ふるさと事業 について

埼玉県農林部
農業ビジネス支援課

1

中山間地域ふるさと事業の背景

現状

- 高齢化する中山間集落（H27高齢化率 33.7%・全県24.6%）
- 人口減少の進行（H22 → H27 96.92%・全県101.00%）
（平成27年国勢調査）

課題

- 高齢化、人口減少により地域コミュニティの維持が困難
- 営農の継続、伝統文化の継承、耕作放棄地の増加等が懸念

これらの中山間地域が抱える課題に対応するために



「中山間地域ふるさと事業」を実施

中山間地域ふるさと事業とは

- ◆中山間地域が有する多面的機能の発揮と、地域住民活動の活性化を目的とする。
- ◆中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱(農林水産省)に基づき、都道府県に基金を設置。埼玉県の積立額は6億9千万円。
- ◆事業主体は都道府県。
- ◆運用益と基金を取り崩して事業費としている。令和元年度当初予算額は約13,641千円。

事業の構成

1 調査研究事業

(平成30年度予算額：12,105千円)(令和元年度予算額：11,410千円)

- ・地域住民活動の活性化に係るワークショップ等の実施
- ・集落営農を確立するための新たな生産技術や鳥獣害対策の調査研究

2 研修事業

(平成30年度予算額：200千円)(令和元年度予算額：200千円)

- ・地域活性化に必要なリーダーとなる人材を育成するための研修会の実施

3 啓発推進事業

(平成30年度予算額：2,016千円)(令和元年度予算額：2,031千円)

- ・中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動の実施

中山間地域ふるさと事業 (H27~H31)

事業区分	事業名	計画期間 の事業量	単位	年度別事業量				
				H27	H28	H29	H30	H31
1 調査研究 事業	(1) 住民活動支援 (コンサルタント)	3	地区	1 (1)	(1)	1 (2)	(2)	1
	(2) 住民活動支援 (ふるさと支援隊)	新規 10	支援隊	2 (3)	2 (2)	2 (3)	2 (4)	2
	(3) 集落営農体制確立	10	課題	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2
2 研修事業	集落リーダー育成 研修	新規 10	人	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2
3 啓発推進 事業	(1) 啓発・普及活動	15	回	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3
	(2) 広報紙の配布	20	回	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4

※ () 外は平成26年度に作成した実施計画
() 内は平成30年度末までの実績

コンサルタントによる支援

企業に委託して実施
1地区あたり200万円
を上限とする。

(平成30年度予算額：4,000千円)

(令和元年度予算額：4,000千円)

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

ときがわ町（H29～H30）ランドブレイン株式会社



観光施設の売上向上及び施設同士の連携を図ることによる地域活性化と交流人口の増加、更には地域雇用の増進と地域愛の醸成を目指し活動を行っている。

〈H29〉

- ・ 町有観光施設の調査・分析
- ・ 地域資源と観光施設の特徴を活かした売上向上の提案
- ・ モデル施設への個店研修の実施

〈H30〉

- ・ モデル施設への個店研修の継続
- ・ 町内他店舗へ指導内容を波及（全体研修の実施）

コンサルタントによる支援

小鹿野町（H30～）株式会社ワールド・ビジネス・アソシエイツ



小鹿野町産カボスの販売方法検討による販路拡大とカボスが地域に浸透するように町内飲食店や旅館業等と連携し、カボスを使用した新メニューを開発する。

〈H30年〉

- ・ 小鹿野産カボスの現生産状況の調査
- ・ 生産者や飲食店経営者、旅館経営者等とカボス活用に向けてワークショップの実施
- ・ パイロット店を選定し、カボスを使用した新メニューの開発と提供

令和元年度の実施

- ・ 2年目を終えたときがわ町は事業終了。
- ・ 小鹿野町ではカボスを活用した地域活性化に向けて引き続き支援する。（2年目）
- ・ 新規地区として越生町ではうめやゆずを活用した地域活性化に向けて支援する。（1年目）

ふるさと支援隊による支援

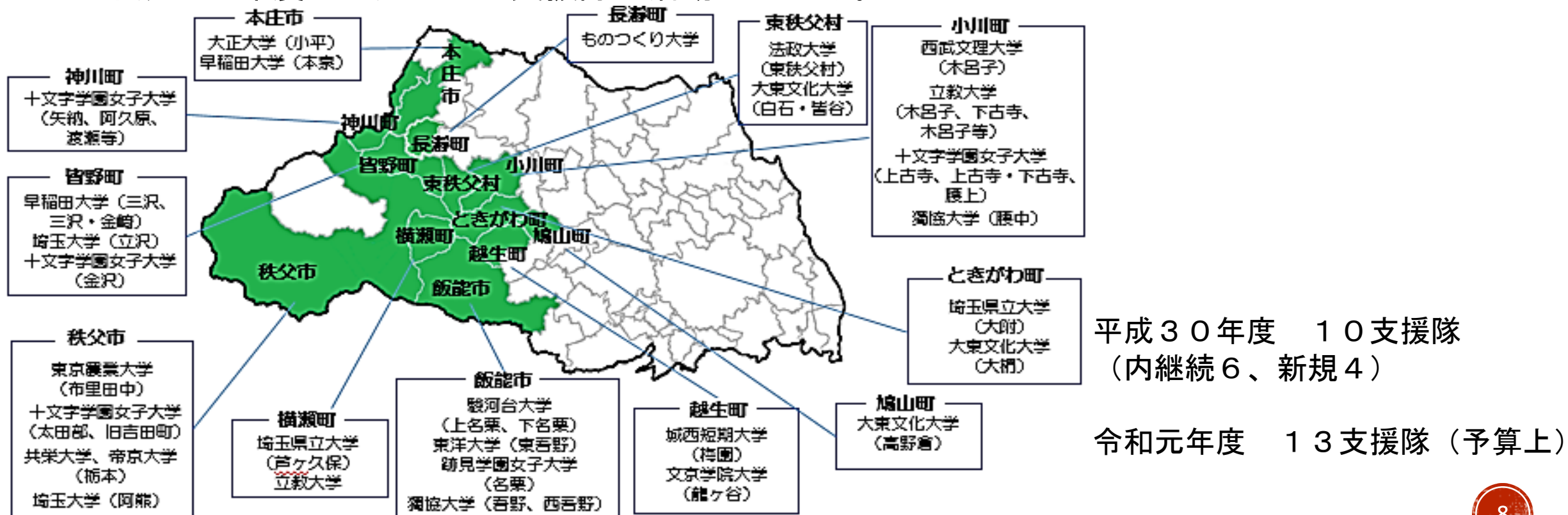
(平成30年度事業費：6,300千円)

(令和元年度予算額：5,600千円)

大学に委託して実施
1地区あたり50万円
(継続地区は40万円)
を上限とする。

大学生等の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の活性化を図る。

平成22年度から延べ39支援隊が活動している。



1 調査研究事業 (2)住民活動支援

ふるさと支援隊の活動 (H30)

	大学名	市町村	対象集落	活動テーマ	責任者	継続/新規
1	十文字学園女子大学	秩父市	旧吉田町	伝統行事や郷土食と農作業を通じたふるさと支援	名倉 秀子	継続4年目
2	立教大学	小川町	原川、笠原、鞠負、木部、勝呂、木呂子、増尾、飯田	交流人口の増加とその交流の促進を通じた地域活性化	空閑 厚樹	継続3年目
3	ものづくり大学	長瀬町	全域	長瀬町の観光に関する地域住民と来訪者のイメージギャップの可視化による観光資源活用方策の最適化	田尻 要	継続3年目
4	早稲田大学	皆野町	三沢金崎	多世代・多文化交流を基盤とした祭りによる地域活性化と健康創成	扇原 淳	継続2年目
5	獨協大学	飯能市	西吾野	観光・地域資源の活用と支援並びに保存活動	高松 和幸	継続2年目

6	大東文化大学	東秩父村	白石皆谷	東秩父村中山間地域の暮らし(食、慣習、自然風土)を通じた交流の創造	新里 孝一	継続2年目
7	駿河台大学	飯能市	下名栗	Hanno Happy Woody Project -木材を有効活用して観光まちづくり-	平井 純子	新規1年目
8	立教大学	横瀬町	全域	若者参加による地域のにぎわいづくり	舛谷 鋭	新規1年目
9	十文字学園女子大学	神川町本庄市	渡瀬、下阿久原、上阿久原、矢納本庄市全域	農業と地域資源を生かしたグリーンツーリズムの試み	星野 敦子	新規1年目
10	十文字学園女子大学	皆野町	金沢	地域文化の発見と交流 ~皆野町金沢地区における学生による工夫と創造~	狩野 浩二	新規1年目

ふるさと支援隊の活動 (H30) 新規地区



十文字学園女子大学
(神川町阿久原地区等、本庄市)
・グリーンツーリズムを軸としたシティプロモーションの推進を目指す。
・地域資源を調査、体験しながらグリーンツーリズムプランを作成する。



駿河台大学(飯能市下名栗地区)
・活用されていない木を有効に活用しながら、地域活性につながる取組をする。
・専門家に人形作りのコツを教わりながら、インスタ映えする人形の作成を目指す。



十文字学園女子大学
(皆野町金沢地区)
・地域文化を発見し、地域外に向けて情報を発信する。
・地域に活動の要望調査を行い、活動を検討していく。(商品のパッケージ考案等)



立教大学(横瀬町地区)
・町内のイベントにスタッフとして参加し、企業と連携することでにぎわいづくりに貢献する。
・脱日帰り、宿泊型ディステーションとして、Iターン目的地の1つになることを目指す。

「ふるさと支援隊」 同士の交流



「ふるさと支援隊」交流会（H30）

他の支援隊の活動内容を知り、活動の悩み等を解決し、今後の活動に活かすことを目的に開催。

各支援隊のこれまでの活動内容や今後の活動スケジュールについて報告し、意見交換会を実施した。



「ふるさと支援隊」活動報告会（H30）

年度における活動の集大成として活動報告会を開催。支援隊だけでなく、地域の方、市町村職員にも出席していただき、ふるさと支援隊の活動内容を周知することにもつながっている。

県農業技術研究センター等による支援

(平成30年度予算額：1,254千円)

(令和元年度予算額：1,260千円)

集落全体で取り組むべき新たな生産技術や鳥獣害対策等の調査研究を行い、農業生産の維持・拡大による中山間地域の活性化を図る。



鳥獣被害防止対策推進事業(700千円)

- ニホンザルの効果的被害対策の解明
- 新たな被害防止技術（柵）の開発
- 多獣種の被害を防ぐ安易で簡易な被害防止柵の開発普及
- 被害防止対策の啓発活動



秩父地域の風土を活かした茶の製造法の確立（560千円）

- 天候に左右されない紅茶萎凋技術の確立
- ティーポット用緑茶一煎パックの開発
- 紅茶品質の評価をする求評会の実施

ふるさとリーダー育成研修

(平成30年度予算額：200千円)

(令和元年度予算額：200千円)

中山間地域の活性化の推進及び助言等を行う人材を育成する。

外部人材を活用した地域活性化



<H29> 参加者数:31名
「中山間地域における地域おこし、外部人材との協働」

- ・地域おこし協力隊制度の活用
- ・移住促進に向けた取組



<H30> 参加人数:25名
「地域活性化のための農泊事業を考える」

- ・農泊事業の概要
- ・農泊による地域活性化の取組

中山間地域における取組の広報

(平成30年度事業費：2,016千円)

(令和元年度予算額：2,031千円)

中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動を実施する。

各種イベントでのPR活動

<H30>

- JR浦和駅において中山間地域の観光農業をPR
- 彩の国食と農林業ドリームフェスタにおいて埼玉県の中山間地域の農業をPR
- 県庁オープンデーにて中山間地域の観光農業をPR



広報誌の配付

中山間地域の農村の魅力や活性化の取組を紹介する情報誌『新・田舎人』を配布

※ 年4回配布(6月、9月、12月、3月)

